

飯盛寺ゴーマラニック実行委員会
委員長 杉本 和範さん (32歳・飯盛)



きっちり おばま 人

生まれも育ちも兵庫県ですが、実家の飯盛寺がある小浜には子どものころ毎週のように帰省していました。名古屋での就職を経て、昨年8月にふるさと小浜へと戻ってきました。

「走るのが好きで、名古屋でも仕事をしながら、週3回ぐらい走っていました。小浜に帰ってからは、毎朝走っています。加斗地区の運動会のマラソンに出場したのがきっかけで、市の陸上競技協会にも誘ってもらいました」と話す杉本さん。昨年、県都市対抗駅伝と嶺南駅伝に出場し、メンバーのひとりとして、優勝を勝ち取りました。

マラニックを各地区で開催したい！

京都や宮古島のウルトラマラソンにも参加。「参加した大会には全国から大勢の人が集まっていました。走るのが好きな人はどんなに遠くても、参加料を払ってでも来るんですね」と、目の当たりにしたマラソンブームのすごさを話します。

「うちはお寺なんですけど、普段の行事だけでなく、マラソンなどのイベントもやることで、お寺や文化に触れていただく機会を作れるし、地域の活性化にもつながるのではないかと考えました」と話す杉本さん。地域で会議を重ねながら、今全国でも注目を集め出している、マラソンとピクニックを合わせた競技『マラニック』を計画します。

3月に開催した飯盛寺ゴーマラニックは、大勢の家族連れでにぎわい、初めての試みは成功に終わりました。「当日は県外からも参加があり、またやってほしいという声もたくさんいただきました」と振り返ります。

今後の目標を尋ねると、「来年はより地域の活性化につながるように企画していきたいです。マラニックはタイムを計らないので、気楽に親子で参加できるのが魅力だと思います。お寺をスタートに地域をまわるマラニックを、市内の各地区でも開催したいです」と、笑顔で語ってくれました。

協働のまちづくり情報BOX (vol.10)

協働の基本指針市民説明会・講演会を終えて

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線372

今回は、6月に開催した協働の基本指針市民説明会・講演会について、市民協働課の担当リーダーの声をお届けします。

- 市民説明会・講演会では、多くの皆さんの参加をいただき、誠にありがとうございました。
- 「協働」はわかりにくいという声も聞きますが、新しいものでも特別なものでもありません。
- 身近なことで言えば、まちの清掃活動、花いっぱい運動、地域での高齢者の見守りなど、市民ひとりひとりが住む地域を愛し、より良い環境をつくるため、自ら考え、動くことがまさに「協働」のはじまりです。
- 地域での温かいきずな・つながりが残っており、協働の土壌が醸成されている本市では、こ



6月30日の説明会・講演会には約150人の市民の皆さんの参加をいただきました

れまで以上に、市民・団体・事業者・行政が一丸となって、協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。

●また、協働の旗振り役を担う市職員の意識改革が不可欠ですが、今回は、職員の協働に対する意識を把握するため、動員という形で参加要請ではなく、自主的な参加としました。

●結果は、職員説明会の内容と重複するにもかかわらず、50人を超える職員の参加があり、徐々にはありますが、職員の意識の変化を感じました。

●今後、できるだけ多くの市民の皆さんの身近な声を聞くことができるよう、地区別の説明会、意見交換会などを開催したいと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。

俳句

小浜市俳句作家協会

耳鳴りの如く夜明けの蟬を聞く 中井 信谷 冬木
母愛でし底紅供ふ孟蘭盆会 中井 古谷 義次
美人画の団扇を使ふ半裸にて 水取一丁目 山田 佳郷

山柳

川柳かもめ教室

朝顔とゴーヤの息づく縁側で 雲浜一丁目 猿橋久美子
ふるさとの川の歪みを考える 千種二丁目 新田 弘
寄り道の訳は今でも胸の奥 山王前 浜詰わか子

短歌

いずみ短歌会

「幸せに暮してゐるのが親孝行」 父の言葉を憶ふ父の日 山手一丁目 加納 暢子
日焼けした石巻工の阿部主将 力をこめて選手宣誓 遠敷八丁目 川嶋 和雄
定かには見えねど今し金星は 陽に影を落しゆく天空の妙 雲浜二丁目 塩谷トミ子

広告

広告

広告

広告

広告

広告